



えんじゅ

春日市立春日小学校

校長室便り No.9

令和5年9月8日

文責：校長 福島

一輪の花



昨日の朝のことです。西門で子供たちを迎えていると、1年生が小さな1輪の花を手に持って登校してきました。その子は私の前で立ち止まり、黙ってその花を差し出しました。「もらっていいの？」その子は黙ってうなずきました。「ありがとう、うれしいです。かわいい花だね。」一輪の花と共に、今日も1日がんばるぞというエネルギーをもらうことができました。

話は変わりますが、夏休みに地域の夏まつりが開催されました。昇町のオープニングで5年生有志がソーラン節を披露することになっていたのですが、オープニング少し前に会場に行きました。会場で私を見つけた5年生有志の子供たちは「校長先生ー！」と手を振って私のところに駆け寄ってきてくれました。とっても嬉しかったです。子供たちが愛おしく思えました。この話は、夏休み明けに「夏休みで一番うれしかったこと」として職員にも伝えました。

教師という仕事をやっていて、子供と心が通い合う瞬間は何よりも喜びです。校長をやっていてもこんな心の通い合いを感じることができ、幸せです。直接子供を指導する立場ではない私に子供たちが心を開いてくれるのは、全職員、いや全コミュニティのおかげです。いい教育ができていていると思えます。

また話は変わりますが、最近話題の「生成AI」をこの夏初めて使ってみました。「こんなことがだれもができる時代になったのか。」衝撃を受けました。インターネットがこの世に出てきた時と同じくらい社会が変わることを実感しました。「これからの学校はどうあるべきか」考える大きなきっかけになっています。

「教育には不易と流行が大切である」と言われます。未来を生き抜く子ども達に必要な資質や能力を、しっかり育てていきます。一方で、心をつなぎ合い、感情と向き合いながら豊かに生きていく基礎を培います。AIにはできないことが学校にはあります。